

ボイ捨てに感じた事

私の家は道路沿いにあり、飲料水やビールの空缶、たばこの吸い殻、雑誌等が捨てられています。缶には中身が残っている場合があり、捨てる時ズボンを汚したりします。車中から又、歩行中にポイと簡単に捨てていくのでしょう。空缶の捨て場所は路上とか、貞山堀沿い、緩衝緑地帯の中等到る所に投げ棄てられております。

緩衝緑地帯は犬の散歩に利用されておりますが、糞の始末がされておらず、「銅い主の生き様わかる犬の糞」と路上に書いたこともあります。

道路の擁壁へのスプレーでの落書きも目に余るものがあります。これらの行為を目撃する事は滅多にありませんが、行う人間に倫理感が欠如している結果と想います。

仙台市では、地下道の壁の落書きを消すため、地域の方々が立ち上がり清掃したことを新聞で拝見いたしました。又、ピンクチラシも一掃すべくボランティア活動者を中心に住民の方々が立ち向かっております。大代地区でも、春、秋の二回缶拾いを行つておりますが一向に減る様子が見えません。

各地区道路角地を利用した「花壇」が作られております。一服の清涼剤となつて心を和ませていただいており、植え付けから草取り、水散布等管理を通して作業をされております姿にはいつも感謝申し上げております。

生活環境の向上を目指して、さらに幅広い住民皆様の理解と努力を行動に結び付ける事ができないものでしよう

か。地味ではありますが、確実な活動を多くの方が見聞きすることによって協調性、連帯性が醸成され、明るくさわやかな街づくりができるのではないかと思ひます。

大代中区 小野菊郎

まさしく晩秋と言える寒い十九日。今年の納会となる大代ゴルフ愛好会が催されました。出発が七時十五分といふ早い時間松島チサン大郷コースは流石に明るくなっていますが、北風が冷たく全員ブルブル。それでも皆元気一ぱい。塩釜、七ヶ浜、仙台等から馳せ参じた方々も気合を入れて、ドライバーも見事なショットを放つております。

大代防犯協会から

去る十一月十九日早朝、市内高崎地区で起きた暴力殺人事件は、市民の皆さんを震え上がらせた事件であつたと思います。

市内の学校では、不登校、いじめ、暴力、大声での授業妨害、バイクの無免許運転、校内施設の破壊等、これら諸問題に、学校の先生方はやるせない思いとその解決に極めて大きな苦悩を抱えていると思われます。昔のように特定の「悪」ではなく、「普通」の生徒たちが引き起こしているように聞いております。他人を受け入れない、狭い自我をもつた子供たちが増えてしまっているのだと思います。いつ・どこの子供が何をするのかわからないという不安が家庭の両親、地域の大人们に広がって来ていると思います。

生徒たちが引き起こしているように聞いております。他人を受け入れない、狭い自我をもつた子供たちが増えてしまっているのだと思います。いつ・どこの子供が何をするのかわからないという不安が家庭の両親、地域の大人们に広がって来ていると思います。

此の家の彼が少年なりし日に掛けし巣箱ぞ鳥入らず古るる

小倉紀美子

大代ゴルフ愛好会より

連載読物
一代目花咲かじいさん

若生一徳(大代西)
26

落葉した立ち木に登つて、かごの灰をまくたびに、枝という枝にパツパツと花が咲き、馬上の殿さまは自分を見上げ「あっぱれ、あっぱれなるぞ!」と連呼している一年前の面影が、松之助の臉のうらにちらつきました。

合掌をといて現実をみても、自分の周囲に何事もおきていません。殿さま始め側近たちの目差しは、いらだちを宿して異様に光っています。

『ああこれ以上、成す術を知らぬ! 茂作じいさんを訪ね、その方法を会得しておけばよかつたなあ!』との相念が脳裏をかけめぐり、松之助の胸は哀しみでそまりました。

足のしびれもあり、松之助は両手をついて腰を上げ、尻を板敷へじかにして座り直しました。その瞬間、松之助は急に唇をきつく結んで息をこらえたのです。



▲ 短歌 ▼

跡辺三夫

寝ぐるしき夜半にかそかな虫の声
道辺の萩も散りしきおらむ

本郷 貞子

(続く)